



あるあるメモ 「かかりつけ薬剤師って?」

私たちを支えてくれる医療者には、医師・薬剤師・看護師・検査技師・・・など様々な専門職がいます。今回は「薬剤師」にフォーカスしてみましょう!

最近「かかりつけ薬剤師」という言葉を聞くようになりました。患者自身が、自分専属の「かかりつけ薬剤師」を決めておくと、何かと便利です。お薬のことをまとめて把握してもらうことができますし、お薬に関する相談に、いつでも応じてもらえます。詳しくは、お近くの薬局や薬剤師さんにお問い合わせください。

あるある情報

「便秘」も、抗がん剤治療中の副作用の一つです。便秘に悩まされている患者さんも、多いことでしょう。処方される便秘薬には様々な種類があるようです。誰しも自分の症状によく合うお薬に出会いたいのですよね。

お薬の知識がない患者にとって、頼りになるのが薬剤師さんです。お薬に対する疑問や悩みがあれば、「お薬手帳」を持参して、是非一度薬剤師さんに相談してみましょう!

こころの駅舎 がん患者

“あるある”かわら版



読者投稿欄「こころの駅舎」ひろ・は

クリーンルームで療養中の叔母

私には白血病で入院し、抗がん剤治療をしている叔母がいます。先日叔母に「何か欲しい物はない?」と電話して聞いてみたところ、叔母はちょっと元気のない声で「靴下」と言いました。何故靴下なのかと気になりつつ、「3足1,000円のでいい?」と聞くと、叔母は「いいよ。」と答えました。

叔母は今、白血球が減少して色々な細菌に感染しやすくなっているため、「クリーンルーム」という半滅菌状態の部屋にいます。この部屋は上座から足元の下座まで定期的にジェット気流が流れて空気も清浄されています。悪い空気は、排気口から出ていく仕組みになっています。追い出されるのは空気だけではなく、埃、髪の毛、消しゴムのかすに至るまで、掃除機のノズルのようなもので吸い込まれていくようです。

ある時叔母は、うっかり床に靴下を落としてしまいました。「アッ!」と思った瞬間、靴下はジェット気流によって排気口に姿を消してしまいました。しかも同じ失敗を2回も繰り返したようです。電話を掛けた時、叔母がしょんぼりした声だった理由がわかりました。「いろいろあるね。靴下は3足持っていくからね。」「ああ、待っとるよ。ありがとうね。」電話の向こうの叔母の声が弾んでいました。(吉川)




今年もよろしくお願ひします

2020年の幕開けです。皆さんにとって、今年はどうな一年になるでしょうか。「こころの駅舎」2020年最大のイベントは、がん患者さん・ご家族の貴重な体験発表をまとめた冊子の発行だと思っています。もうすぐ完成します。どうぞお楽しみに!



## “4コマ漫画”に込めた思い

 4コマ漫画には「こころの駅舎」に参加されているがん患者さん・ご家族を中心に、患者さんを支える医療スタッフなどが登場しています。ユーモラスに描かれるがん患者さんの日常(療養)生活のひとコマが「こんなこと“あるある”」「こんなことがあるんだ・・・」と、がんに対する理解を深めるきっかけになればと願っています。



\*漫画を描いてくださっている さっちよさんは、がん患者さんのご家族です。

### ■ 毎月第4木曜日

### ■ 開催形態

イベント型(4月、8月、12月)

[時間] 14:00 ~ 15:30

定期型(上記以外の月)

[時間] 14:00 ~ 18:00

### ■ 東広島芸術文化ホール

くらら

東広島市西条栄町7番19号



\*「がん患者“あるある”かわら版」小冊子についてのお問い合わせは、(一社)東広島地区地域連携室あざれあにお願いいたします。



第19号(令和2年1月23日)

こころの駅舎発行



〈事務局・発行協力〉  
一般社団法人 東広島地区医師会  
地域連携室あざれあ  
電話：082-493-7360  
FAX：082-493-7361

